

2016 年度第 3 回理事会議事録

期 日：2017 年 3 月 8 日（水）メール審議

報告事項

1. 第 12 回 MR 専門技術者認定試験準備委員会

期 日：2017 年 2 月 25 日（土）17:00～20:30

場 所：大阪医科大学臨床実習棟 1F

出席者：土井 司，内田 幸司，京谷 勉輔，山崎 良，山村 憲一郎 5 名

- 内容 (1) 試験問題の確認と配布方法の検討
 (2) 試験会場の確認（P101：132 人、P302：90 人は事前に確認済）
 (3) 座席番号の貼付 (4) 受付と案内板の準備
 (5) 講演時の備品動作チェック

2. 第 12 回 MR 専門技術者認定試験実行委員会

期 日：2017 年 2 月 26 日（日）7:45～17:00

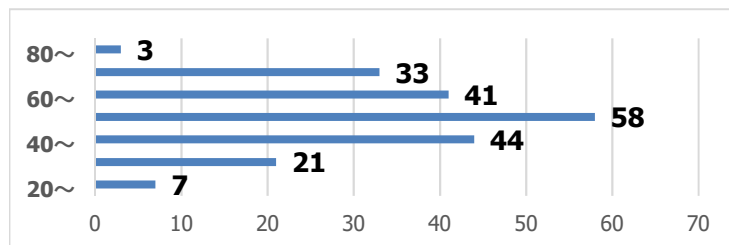
場 所：大阪医科大学臨床実習棟 P101 P301 P302 P601 P602

出席者：石本 剛，上山 毅，内田 幸司，江田 哲男，大野 誠一郎，笠井 治昌，菊地 克彦，京谷 勉輔，土井 司，山崎 良，山谷 裕哉，山村 憲一郎 12 人

講師：石森 佳幸，清水 徹，木下 博嗣，土橋 俊男 4 人

- 内容 (1) 第 12 回 MR 専門技術者認定試験
 9:50～10:50 筆記試験 (1) 基礎物理，撮像技術，応用技術，読影技術
 11:10～12:00 安全管理講習会 (1) 人体への影響 [石森・内田]
 13:00～13:50 安全管理講習会 (2) MR 装置の安全性とその対策 [清水・木下]
 14:10～15:10 筆記試験 (2) 保守管理，安全性，アーチファクト，解剖
 受験申請者：222 人 欠席：15 人 受験者：207 人
- (2) 更新のための MR 安全管理講習会 (第 12 回 MR 専門技術者認定試験併会)
 11:10～12:00 安全管理講習会 (1) 人体への影響 [石森・内田]
 13:00～13:50 安全管理講習会 (2) MR 装置の安全性とその対策 [清水・木下]
 14:00～14:40 安全管理講習会 (3) 条件付 MRI 対応医療デバイス [土橋]
 14:45～15:20 安全管理講習会 (4) MR 専門技術者の役割 [土井]
 受講申込者：45 人 当日申込者：9 人 研修受講者：54 人

採点結果



3. 第 2 回・第 7 回認定者更新申請確認

認定試験	更新対象者	申請者	不承認	上級	一般
第 2 回認定者	36 人 (上級 10 人)	31 人	0 人	12 人 (新規 5 人)	19 人
第 7 回認定者	83 人	80 人	3 人	14 人	63 人

4. 第12回認定試験採点結果

(1) 合格基準について

受験者 207 人の 前半平均：28.3 点
後半平均：26.0 点 総合平均：54.3 点

前回に比べて正答率が低下した原因

- 1) まったく同じ過去問題を出さなかった
- 2) 再受験者が減少した（前回約 45%→今回 15%）。

(2) その他のデータ

初回受験者合格率：44.9%（79 人） 再受験者合格率：29%（9 人）

議事

1. 第12回 MR 専門技術者認定試験 平均 54.3 点

- (1) 第12回磁気共鳴専門技術者認定試験の合格者の決定
88 人（42.5%）を認定者として承認した。
- (2) 欠席者 15 人の取扱い
今回の試験に不合格だった方と同じ次回以降の受験を再受験扱いとする。
- (3) 合格証の記載内容の確認
一部文言を修正して承認した。
- (4) 不合格通知の記載内容の確認
提案通り承認した。

2. MR 専門技術者認定者の更新

- (1) 第2回試験合格者2度目の更新申請があった31人の更新を承認した。
その内、上級 MR 専門技術者に新規 5 人、継続 7 人を承認した。
- (2) 第7回 MR 専門技術者認定者の更新について
 - 2-1) 更新申請があった80人のうち更新ポイントを満たした77人の更新を承認した。
その内、上級 MR 専門技術者に14人を承認した。
 - 2-2) 更新ポイントに満たない3人には、一旦個人票を返却し100pに達した時点で再送付していただき、その時点で更新認定をする。次回更新は5年後の2021年度とする。

3. 2017年度事業計画案

定時総会：2017年7月（JSRT 東京事務所）

理事会：第1回（2017年7月）、第2回（2018年1月）、第3回（2018年3月）

機構の活動：第13回磁気共鳴専門技術者認定試験（2018年2月_首都大学東京）

第3回・第8回 MR 専門技術者認定者の更新

第10回 MR 医療安全セミナー（2017年11～12月_首都大学東京）

MRI 安全管理のための啓発活動の推進

学術支援活動（海外研究会への参加、研究班活動）の継続

- 検討事項
- ① 次期理事の選考にあたって地域性を考慮する。
 - ② 試験作成者によって認定試験問題の難易度が変わるのかを検証する。
 - ③ 事務作業などを担う要員の雇用について。

以上